

クリエイティブ・コモンズ・ ライセンスの更なる普及

渡辺智暁（NPO法人コモンズフィア）

シンポジウム「著作権延長後の世界で、我われは何をすべきか」

2019.01.10. 於:東京ウィメンズプラザ

「非親告罪化」とグレーゾーン

- 「非親告罪化」の範囲
 - 何をしたら「原作のまま」になるのか？
 - どこかのサイトで有料配信されていたら「有償著作物」か？ どうやって確認したらいいのか？
 - （という以前にもっと漠とした理解と疑問、誤解）
 - 「犯罪」「警察」から、強い萎縮効果も
 - ※Yahoo!知恵袋を見ると、非親告罪化や警察の捜査等に関する質問は少なくない
- 利用してもよいコンテンツが何なのか、わかりやすいと助かる

権利確認コストは増+利用形態は多様化

- AIが生成したコンテンツ、自動生成される記録映像等（サルの自撮りも）
 - ネット上で見かける作品で、起源が不明
 - 著作者が多いコラボ作品、n次創作品
 - 著作物性の有無が要確認な大規模データ群
 - 侵害物や第三者の権利物が含まれていないか無保証のデータ
 - + 権利者不明作品が更に増えることになるか…
-
- 大作家・大企業の作品を鑑賞する → 許諾取得は相対的に楽
 - （※ただし一般人は相手にしてもらえないことも）
 - 民謡や昔話のように「みんなのもの」が連綿と受け継がれる → 大変
 - データを機械的に大量に処理・利用する → 大変
- 利用してもよいコンテンツが何なのか、わかりやすいと助かる

「使ってOK」と意思表示するために： クリエイティブ・コモンズ・ライセンス

- 法律家も作成に関与、堅牢に 一でもわかりやすさも重視
- アイコンなどを使って判別しやすく
- 解説資料やFAQ等も用意
- グローバルに広く使われている（Wikipedia、世界のオープンデータ、各種アーカイブ、初音ミク、etc.）
- 世界中で展開。日本でも改組、拡大を予定。



クリエイター：活用される、死蔵されないために

- 6種の基本ライセンスの中から選んで使えるよう支援ツールも用意
- 他にも、ライセンスではなく、権利を放棄してパブリックドメインにしたい人向けのツールも提供

ユーザー：様々なライセンスを学ぶ手間が大幅に節約できる

- ライセンス付き作品のキーワード検索も可能（Flickr、Europeana、Soundcloud、etc. Creative Commonsで横断検索も）

→ 詳細は <https://creativecommons.jp> へ

この資料のライセンス

この資料はCC BY 4.0 国際 (creativecommons.org/licenses/by/4.0/)
で提供されています。

・ 著作者名：渡辺智暁

なお、著作権表示、無保証を参照する表示はありません。

「本パブリック・ライセンスを参照する表示」にあたるのは上の一文
だけです。そこで、この資料を利用して別の資料を作成した場合など
には、たとえば、以下のような表示をすればよいこととなります。
(それに加えて、合理的に実施可能な場合にはこの資料のURLを記載
します。)

「この資料の一部は、渡辺智暁による資料を改変の上利用しています。
利用した資料のライセンスを参照する表示：『この資料はCC BY 4.0
国際 (creativecommons.org/licenses/by/4.0/)
で提供されています。』」